71 号

令和２年　新春号

なでしこ通 信

明けましておめでとうございます。

今年は、オリンピックイヤー。おもてなしを全面に打ち出して、開催都市に選ばれた東京オリンピックでしたが、競技場の建設を巡る色々とトラブルや猛暑の東京を避けて、マラソンの開催地が急遽、札幌に変更されるというどんでん返しがあったものの、ギリシャやブラジルのように、建設が大幅に遅れることはなく、無事開催を迎えられそう。

３月からは、聖火リレーが出発。夏本番に向け、オリンピック一色になりそうな日本。

昨年盛り上がったワンチームではないが、今年も様々な競技での日本選手の期待できそうで、今からワクワクしています。

新春のあいさつ

支援センター理事長　　眞子義

秋

明けましておめでとうございます。

昨年は里親会の皆様を始め関係者の方々のご協力をいただきまして、多くの子供たちが里親家庭で生活することができましたことに対し厚く御礼申し上げます。

里親会で平成17年に法人化して今年14年を向かえます。この間「研修」「支援」「啓発」の3本柱を立て活動してきましたが、その成果が表れ委託率も全国上位にあります。委託率が高くなればなるほど指導が困難になることが多くなってきていますので、研修の充実と相談活動に力をより一層努めていきたいと思います。

里親制度を理解していただき多くのかたに里親登録していただくために、リクルートにも力を入れていきたいと思います。特に平成 14 年の理事会で小学校区に 1 名の里親登録を目標にしてきましたが、いまだ達成されていません。地域に根差した里親活動をしていきたいと思います。

令和に入り初めての新年を迎えます。

皆様のご協力をいただき里親支援活動に努めてまいりたいと思います。

●　「年頭にあたり」

静岡市里親会会長　眞保和彦

いつも里親会活動にご参加ご協力いただき感謝申し上げます。皆様は新しい年を迎え、どのような希望や目標を掲げられたでしょうか。年頭にあたり、関係者の皆様に敬意と感謝を込めて一言ご挨拶申し上げます。

子どもたちもそれぞれに目標を立て、それに向かって頑張っていこうとしていることでしょう。そんな時に我々里親は、子どもたちのために学び、繋がり、温かく見守り、そっと背中を押してあげることを大切にしてこの一年を進んでいきましょう。

新しい里親さん紹介

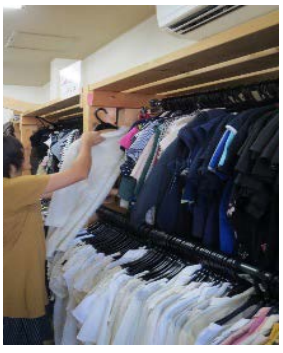
□	養育里親・養子縁組里親登録	令和元年 12 月 25 日	葵区　1 組
□	養育里親登録	令和元年 12 月 25 日	駿河区　1 組

キャリアカウンセリングプロジェクト（ＣＣＰ）・プラスの開催

特別支援学校・支援級の子どもを対象としたキャリアカウンセリングプロジェクト（ＣＣＰ）は、令和元年 10 月 5 日の第 4 回をもって終了しましたが、子どもたちを養育する里

親さんとの意見交換会で、子どもたちの自立のために知りたいことや不安など、様々な意

見が出されました。
　その一つとして、子どもたちの就労先とか、住まいを見てみたいという要望を受け、子どもたちが就労体験した事業所とともに、グループホームの見学会を「キャリアカウンセリングプロジェクト（ＣＣＰ）・プラス」として、令和２年１月 29 日（水）に開催します。こうした取組みが少しでも里親さんの子どもへの自立支援に結びつけることができたらいいなと思います。



2019　養育スキルアップ研修

日　時：令和元年 11 月 16 日　9：30～
講　師：　三重県北勢児童相談所
　　山本智佳央　氏
参加者：21 名

子どもの権利 2 「ライフストーリー・ワーク」

ライフストーリーワーク（LSW）は、真実（子どもが誰から生まれたのか、なぜ今ここにいるのか）を、子どもの人生に組み入れる作業（プロセス）で、子どもとライフストーリーを分かち合う中、まさしく里親宅での生活そのものも子どもの歴史となっていきます。

子どもは、今の自分・将来の自分を前向きに受け止め、未来に向かって進もうとする子どもの権利を回復するための重要なプロセスになります。

講師の山本氏が勤める三重県の児童相談所では、ライフストーリーワークを「真実告知」の形で行っています。真実告知やライフストーリーワークは、子どもにとって辛い過去の情報を取り扱うことが多いため、子どもが動揺したり不安定になったりすることがあります。そのため、児童相談所が告知し、施設・里親がフォローするというように、しっかり役割分担しながら進めていました。

山本氏は、具体的な事例を元に、失敗体験も交えて、わかり易く話してくれました。

ライフストーリーワークの意義は、「自分が可愛くないから、悪いことをするから親は手放したとか、施設入所・里親委託になったのは自分のせい」と感じている子が多いなかで、この間違った認識を修正し、自分が望まれ、愛されていると感じられるようになれることです。

三重県の児童相談所で行われている「真実告知」のやり方を学びながら、最後に、「真実告知」や「ライフストーリーワーク」が注目されがちですが、最も重要なのは、日常生活の中での何気ない声掛けや関わりとの指摘がありました。

この子の原点が「実親」ということを考えるならば、実親への配慮は “この子の生を尊重すること” につながっています。

『参加者の感想』

・この研修に参加して、もう少し子どもの成長の歴史に注目し何気ない日常の中での変化に子どものアイデンティティを発見し、子どもとともに LSW を形成していきたいと思いました。
・沢山の体験に基づく事例を交えての話の中で、慎重で繊細な内容に対しての対応もわかりやすかった。
・様々な課題に対して、前向きな気持ちになりました。
・子どもの成長の歴史に注目し、何気ない日常の中での変化に、子どものアイデンティを発見し、子どもと共に LSW を形成していきたいと思いました。
・ライフストーリーブックを作ってみようと思いました。
・実親を肯定的する意識、子どもの揺れを受け止める覚悟とスキルの習得の大切さを知りました。
・真実告知を先日したばかりなので、1 回話しただけでなく、少しずつ何度でも、子どものペースで話していきたいと思いました。
・これからどんなことが起こるか、どんなことが起こってもこちらがたじろがず、向き合ってあげたいとあらためて思いました。

一日里親体験会　みかん狩り　＆　安倍ごころ

１１月２日（土）秋晴れの下、「一日里親体験　みかん狩り」が実施されました。今年度は７組１２ 名が体験里親として静岡ホームの子どもたちとペアとなり一日を過ごしました。また、3組の里親さんにはモデル里親としてご参加いただきました。

みかんは甘くて食べごろで、おとなも子どももついつい食べ過ぎてしまいます。木にすずなりに生っているみかんを自分で好きなだけ採って食べられるのは格別です。

安倍ごごろでは、ペアの大人を独り占めして思いっきり遊んでもらう子どもたちの姿はとても嬉しそうです。多少のわがままにも「かわいい！が勝るんです」と、優しく寄り添ってくれる体験里親さんの姿は印象的でした。子どもたちを見守るホームのお姉さんからの「とても上手にかかわってもらい、いつもと変わらずのびのび遊べています」の言葉にも自信をもらい、子ども達には今日一日を楽しい経験として、体験里親さんにとっては今日が今後につながるきっかけになったのではないかと思います。

参加してくださった方の声（抜粋）

- 最初の顔合わせの時は緊張した様子でしたが、みかん狩りをしていると笑顔がいっぱいで楽しそうで私たちも嬉しくなりました。
- とても良い経験をさせていただきました。モデル里親さんに声を掛けていただき頼りになりました。 みかん美味しかったです！
- 晴天の下で、とっても美味しいみかんでした！子ども達が楽しそうにみかんを頬張る姿は、嬉しく楽しかったです。ありがとうございました。
- 初めての子どもとの交流がみかん狩りでした。現在里子を預かり生活も一変しました。壁にぶつかることも多いですが、毎日楽しく過ごしています。初心に戻り、そしてまた子供たちに温かい家庭を与えていけるよう頑張ります。

静岡ホーム懇談会　１１月１４日（木）

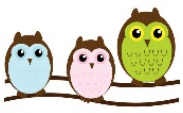
参加者：　里親８名　静岡ホーム４名　支援センター２名

今年度の静岡ホームとの懇談会は【自立】をテーマに、静岡ホームの入所児童への取組みや指導員さんの思いについてお話を伺いました。男の子の自立、女の子の自立、特別支援学校へ通う児童の自立、自立後の支援体制についてそれぞれの事例をまじえたお話をしてくださいました。
どの指導員さんもインケアの最重要ポイントとして、まずは児童との関係性を作ることにつきるとおっしゃっています。児童との関係性（信頼関係）なくして、より良い自立はありません。
社会的養護下の子ども達の「より良い自立」は施設と里親の共通目標です。里子を巣立たせることは、里親にとっても悩ましいテーマではありますが、早くから備え、里子との関係性を作り、整えることがより良い自立への近道であるとの考えを共有しました。

◆参加者の感想（抜粋）

- 施設も里親も悩みは結局一緒なんだと思いました。それぞれを自立させる為に、社会に出て何とかまわりにとけこみ、それなりに楽しくやっていけるようにする為に養育をしていて、そこを目指しての日々なんだと思います。
- 生活支援事業について初めて知りました。安心しました。とても有意義な懇談会でした。ホームの職員さんの御苦労を聞きパワーをもらいました。
- とても良い勉強になりました。悩みは、ほとんど似ていることがわかり、今後もお互いに意見交換をしたいです。「素直に話がきける」「ごめんなさいが言える」なかなか難しい。自己肯定感が低い子どもに自己選択や自己決定が出来るようになるのか？まわりにヘルプがだせるのか？心配は尽きませんが、これからも子どもたちに寄り添っていきたい。

子ども達の成長



当センターは、職員の総入れ替えでおおわらわの一年になってしまいましたが、子どもたちは本当に色々と成長をみせてくれました。
特別支援学校や支援級の子ども対象としたＣＣＰでは、井出先生や学生、里親の前で、お仕事フェスタで調査したことを堂々と発表したり、継続支援事業所までバスを乗り換えてお仕事体験したりと、自立に向け貴重な経験をすることができました。
また、中高生の子どもが交流を通じて、自分だけではなく、同じような境遇や特性を持つ仲間がいて、お互い悩みながらも頑張って生きていることを確認し合う場もできているようです。このような中高生のお兄さんお姉さんが、キャンプでは夕食のカレー作りを手伝ってくれたり、クリスマス会ではクリスマスソングを歌ってくれたり、絵本の読み聞かせをしてくれたりと大活躍。　本人たちにとっても掛け替えのない機会となったでしょうし、年下の子とっても憧れの対象となったのではないでしょうか。